



東京部会(第117回)

日時:	2020年6月20日(土) 15:00 - 17:10
場所:	Zoomによるウェブ会議
参加者:	17名参加

今回は杉田孝之先生(千葉県立津田沼高等学校)の司会でウェブ会議を行った。

(1) 新井から「70歳、中学生に経済を教える」の報告があった。

- ・これは、4月から筑波大学附属中学の非常勤講師を依頼された新井の実践報告である。
- ・コロナ休業中の課題からはじまり、遠隔授業での経済の導入の過程が紹介された。
- ・当初の課題は、『レモンをお金にかえる法』の英語版の翻訳とその感想を求めることである。内容理解のために絵本をバラバラにしてそれを順番に並べるといふ金子先生(神奈川県立三浦初声高等学校)の方式を取り入れた課題を出し回答させることを行った。
- ・次は、「経済とは何か」のテーマで希少性や機会費用を取り上げた。さらに、「経済が見える化する」のテーマで経済主体、経済循環をとりあげ、見える化として各主体の大きさをGDPの内訳から確認させるという課題を課した。
- ・そのうえで、今回の検討テーマになる「市場」の学習に進んだ。市場の学習では、20年ほど前にNHKで放映された『世の中なんでも経済学』の価格の箇所を紹介。それをもとに、需給曲線の理解とシフトまで学習させるプログラムを生徒に提示した。
- ・『世の中なんでも経済学』は、導入で夏の旅行がなぜ高いのかからはじまり、価格がなかったらどうなるか、価格はどうかの実験(チョコバナナの価格決定)、価格が需給できるケースとしての花卉市場のルポ、そして最後に導入の夏の旅行代金の秘密を解き明かすという構成である。
- ・生徒はこの価格の授業に対して、完全競争の意味が分かった、数学のグラフとの違いが分かった、夏の旅行代金の秘密が理解できたなどの反応を示したが、一方で、実際の需要曲線のグラフを見たい、供給曲線も価格を知ってから数量を決めるのか、新しい製品が出たときの価格の決め方はどうなのか、需給のバランスをとるにはどうするのかなどかなり本質を突く質問も出ていることが紹介された。
- ・検討では教材とした番組の内容に関して、価格によって夏の旅行の需給を調整するという解答よりは、企業は利益を上げるための合理的行動として価格設定をするはずで違和感が残るとの指摘があった。また、市場のセリが紹介されたが、セリは供給が一定もしくは一人で需要が多数のケースなので、チョコバナナの価格決定の話からセリに話を移すのは再考の余地があるのではないかという指摘もあった。さらに、チョコバナナの価格設定のときに、手間賃があったがそれは企業にとっては留保賃金であり、その部分の内容紹介をもうすこしすることで現実の企業の採用行動や労働賃金の問題に発展できるのではという指摘もあった。

(2) 篠原代表から「需要曲線・供給曲線の教え方」の報告があった。

- ・それぞれの曲線の教え方よりも、需要曲線と供給曲線を使って何を教えるかが大切であるという視点から以下のレクチャーがあった。
- ・経済学習でもっとも教えたいのは分業と交換の理解で、それは市場を通じた交換だけでなく、様々な形態があること。市場であれその他の形態であれ、交換が成立することは売手、買手の双方にとって、交換しないより



も好ましいことを確認すること、合意に基づく取引では、競争市場であれ独占市場であれ、価格に導かれて資源が配分されていることを理解させることであると指摘された。

・教える際には、完全競争均衡は理想的な状況であり、現実の経済の働きが理想状態からどのように乖離しているかを問題にする際の比較対象としての意味として大事なのであり、そのまま現実に説明出来る場合も少ないが、欠陥が多いことを知っておいて欲しいとも強調された。

・価格の決め方には多くの類型があり、「社会を知る」という社会科、公民科の視点からはどの決め方を取り上げるかが教育的に大事であり、選び方によっては生徒の理解が促進される場合もあり、逆にストップする場合もあるのでしっかり考えて取り上げるべきとの指摘があった。

・生徒の経験に近いケースとしては、オークション価格、差別価格、二部料金、完全独占などがあり、それらをうまく完全競争均衡の理解と組み合わせて取り上げることがよいかもしれないとの指摘もされた。

・以上を踏まえて、需要曲線の教え方、供給曲線の教え方のレクチャーが、図を使いながら行われた。

・需要曲線では、各人の需要曲線を導き、それをすべての個人について足し合わせてみるという方法と、最初から市場需要曲線を導く方法の二つを紹介された。需要曲線の導き方を理解していれば、すべての人が合理的に行動するという仮定に縛られず、簡単に余剰分析に移ることができ、消費者だけでなく企業による原材料や、部品、生産要素に対する需要にも適用されるとの先生方へのアドバイスもされた。

・供給曲線では、個々の売手の供給曲線を導き、それをすべての売手について足し合わせてみる方法を中心にグラフをもとに説明され、右下がりの供給曲線を導く例をあわせて示された。

(3)まとめ

・二人の報告で時間いっぱいになったため、杉田先生から、これをもとに次回、さらに質疑、討論を行いたいとの提案があり了承された。

・今回は、新しい授業案や教材の紹介ではなかったが、経済教育の原点がどこにあり、どのような内容を生徒に理解させるべきかの問題提起がされた部会となったといえよう。(記録・文責:新井)

テスト問題
(新テストなど)

中学

高校

指導案

新聞教材 (NI
E)

次回開催予定: 2020年7月25日(土) 15:00~17:00 ネット会議

議題 : 6月の報告を受けての討論「市場の理解のさせかた、発展のさせかた」(仮題)